

2009年3月

【下妻会長】

近く1期2年の会長任期、また、年度末を迎えるという節目にあたり、私の所信を申し上げます。正式には5月25日の総会で承認戴くことになるが、2期目に向けて続投したいと考えている。

2007年5月の会長就任後、1年目は「100日タスク」として、さまざまな事業の総点検を行い、業務をスリム化し運営方針を明確にした。2年目は、関西で活躍する若い方々をメンバーに入れ、約10年後を見据えた「関西ビジョン2020 - 関西、おもろい」を策定した。こらからの関経連や関西が進むべき方向性を示せたように思う。さらに、5月の総会で関西経営者協会の事業を承継し、中堅中小企業の方々や、雇用労働分野も加わり、新しい「関経連」がスタートする。このような中、今退くのも若干、敵前逃亡という感もある。

もとより、道路のミッシングリンクの解消、関西3空港問題にしても各自治体の方々にもきっちり話をして方向性を出していくこと、また今年夏から秋にかけて設立予定の関西広域連合の中身づくりなど関西が抱えている課題解決も重要であり、こうした状況を勘案し、引き続き、関西経済の発展のために続投する決意を固めた次第である。

2年間ご協力戴いた現副会長の皆様には、引き続き、一緒にやって戴きたいとお願いし、すでにご内諾を得ている。また関西経営者協会と一緒にいるが、そちらの方からは岩谷産業 牧野社長に新しい副会長になっていただく予定である。マスコミの皆様には今後とも温かいご理解・ご支援をお願いしたい。

2点目は「大阪・北ヤード ナレッジキャピタルトライアル2009」について。

先行開発区域の中核機能である、ナレッジキャピタルのキックオフイベントとして3月12日(木)、13日(金)の2日間、ほたるまち内「堂島リバーフォーラム」で開催される。「技術と感性の融合」をテーマとした、コラボレーション・プロジェクトが先行的に展示・実演され、具体的には、NICT((独)情報通信研究機構)の裸眼立体ディスプレイや、さまざまな現象が見える可視化技術などを使った15のプロジェクトが出展する。

本イベントは2012年度下期のまちびらきまで毎年開催される予定であり、市民・府民、行政、経済界、学界、マスコミを含めみんなで大阪駅北地区開発を盛り上げてまいりたい。

3点目は、アジアとの連携強化について。

3月上旬、ベトナムにミッションを派遣し、日越経済討論会の実施や、政府要人や経済界との懇談などを通じて、日本・関西とベトナムとの関係強化に大いに役立ったように思う。また、4月12日～15日にかけて関西財界訪中代表団を派遣するが、今回、多くのプレスの方々に同行戴くことになり、お礼を申し上げます。世界の景気が大変な時に訪中するのは大いに意味があると思うので、是非、情報発信をお願いしたい。

【松下副会長】

(「関西財界訪中代表団(4月12～15日)」への期待)

関経連はじめ関西経済界では、国交正常化前の1971年を皮切りに、概ね5年ごとに関西経済界あげて訪中代表団を派遣し、中国政府首脳等との懇談を通じ、日本と中国・関西の関係強化に努めてきた。

前回(2002年)の訪中代表団では、朱鎔基首相(当時)をはじめとする政府首脳や、台頭する民営企業家との懇談を通じて関西とのビジネス交流拡大を図った。

最近で言うと、一昨年(2007年4月)には、温家宝首相が、昨年(2008年5月)は、皆さんの記憶にあると思うが、胡錦濤主席がそれぞれ関西を訪問されるなど、ますます中国と関西の交流は深化・発展している。さらに、本年10月1日には、中華人民共和国の建国60周年の佳節を迎えるなど、中国と日本の関係も新たな局面を迎えている。

そこで、関西経済界として、胡錦濤主席、温家宝首相の関西訪問のお礼、さらに建国60周年をお祝い申し上げるとともに、新しい時代における中国との経済関係を強化するため、代表団を派遣し中国と関西の経済交流拡大を図りたい。

特に、今回は、「中国・関西 水環境フォーラム」を準備している。

中国では、経済の急成長に伴い、水資源の枯渇や汚染など質と量の両面で水問題が深刻化している。こうした中で中国政府は、第11次五箇年計画(2006～2010年)において、上下水の管水網整備、沿海部の海水淡水化計画など様々な取り組みが進められており、また外資を含む民間活力導入も積極的に進められているところである。

一方、日本、関西においては、高度成長期の水環境汚染への対応を通じて、世界でもトップクラスの高い節水技術や水質汚染技術を有し、安全で効率的な水の活用がなされている。こうした経験や技術は、中国における水と環境問題の解決に大きく貢献できると考えられる。

そこで関西財界訪中代表団が派遣されるのを機に、「中国・関西 水環境フォーラム」を実施し、関西の自治体や企業が有する関西の強みをアピールし、水分野における中国と関西のビジネス交流拡大を目指そうと考えている。

以上